

あしたのために

四日市市立朝明中学校
1年生学年通信
令和元年6月24日(月)
その38 文責(浅野)

自主自立！

生き方

～目標を達成したから強くなるのではなく、目標を達成する過程で成長する！～



昨日の道徳で「まだ進化できる～イチロー選手の生き方～」(向上心・個性の伸長)について学びました。2019年3月21日に大リーグ・マリナーズのイチロー外野手(45)が、プロ野球選手としての第一線から引退することを表明したニュースはみんなの記憶にも新しいですよ。

イチロー選手は日本で9年、メジャーリーグで19年活躍しました。この28年間で、数々の偉業を成し遂げ、数々の伝説をグラウンドに残しました。

イチロー選手が2013年に日米通算4000本安打を達成したときの会見が、大変印象に残っています。イチロー選手らしい「生き方」を感じた言葉がいくつかありました。

「こういうきりのいい数字というのは千回に一回しか来ないので、これを4回重ねられたと言う事はとてもじゃないですよ、ま、それなりかなという風に思いますけど。4000と言う数字よりも、あんな風にチームメイトやファンの人達が祝福してくれるとは、全く想像していなかったもので、それが深く刻まれましたし、結局4000という数字が特別なものをつくるのではなくて、記録が特別な瞬間を作るのではなくて、自分以外の人たちが特別な瞬間を作ってくれるものだというふうに強く思いました。」

「ヒットを打ってきた数というよりも、こういう記録、2000とか3000とかあったんですけど、こういうときに思うのは、別にいい結果を生んできたことを誇れる自分では別にないんですよ。誇れることがあるとすると、4000のヒットを打つには、僕の数字で言うと、8000回以上は悔しい思いをしてきているんですよ。それと常に、自分なりに向き合ってきたことの実事はあるので、誇れるとしたらそこじゃないかと思えますね。」

※打率3割の意味：打率2割5分は普通の選手ですが、打率3割の成績なら一流選手といわれます。でも、実際はイチロー選手のようなすごい選手でも、10打席中7打席はヒットが打てません。4000のヒットのためには、8000以上の三振や凡打があります。7回ヒットが打てなくても、3回ヒットが打てれば一流選手なのです。

「毎日同じことを繰り返す、厳密に言うとなんて同じではないんですけども、そういうことで自分を安定した状態にもっていくというテクニックはあると思います。ただ、それを毎日継続できたとしても精神が常に安定するとは限らないんですよ。ただ、その時点の自分でできることを、考えられることをやっておきたいということですね。それでも結果的に不安定な状態になることはもちろんありますし、もちろん、その割合が多いとは言わないですよ、時々そういうことがあるということですね。特によくない結果だったり、難しいゲームの後というのは、気持ちを整理することはとても難しい状態にあることがあるので、いつも続けていることをまた続ける、その日も続けることが時々、しんどいなあと思うことがありますけど、そこは頑張りを見せるところでしょうね。」

スポーツ選手は、私達に多くのことを教えてくれます。私達みんなが、スポーツ選手になるわけではありませんし、外国で活躍するとは限りません。また、多くの一流選手の様な練習をつめば、一流になれるとは限りません。けれども、**人生の基本は同じ**ではないでしょうか。多くの失敗があり、そこから成功が生まれます。だれもが三振をしますが、そこでは終わらないという悔しさを感じ、**失敗と向きあい、失敗から学べるかどうか**です。常にチャレンジャーであり続けるかどうかですよね。**目標を達成するまでの過程が重要だ**とイチロー選手も言っているのです。勉強や部活動などで、自分なりの**チャレンジ**をしていてほしいと思うのです。人は誰もが、**本来の自分を大切にしたい、成長したいと願っている**はずなのです。



期末テストに向けて！～テストに役立つかわからない話～ 「ケアレスミス」

さて今日はテスト終了後によく聞く話から…「ケアレスミス」ですね。中間テストでもよく聞きました。ずばり、数学の計算ミスがやはり多く聞きますね。多かれ少なかれ、10点くらいの計算ミスをしている人も多かったのではないのでしょうか？この計算ミスですが、「本当はできていたのになあ～」というのが、実際のところでしょうか、実はすごい根が深い問題だと、認識してほしいです！つまり、計算ミスをしがちな人の一番の要因は「思い込みが激しい」ということが考えられるのです。この問題はできる！この答えで大丈夫だ！自信を持って解答しているので、安心してしまったり、逆に慌ててしまい、そのほとんどが計算ミスとなり、実力が発揮できぬまま大きく失点しているわけです。「くやしい」の一言に尽きませんが… 油断は禁物。丁寧にやらなきゃだめということです。

ケアレスミスを「うっかりミス」と済ませてはいけません！これはあきらかに、練習不足なのです。英単語スペルミスも同じです。国語の漢字、理科の光合成3要素、社会の地名や気候の名称…つまり普段の勉強から正確に書けるように繰り返し繰り返し勉強する意識があまいと、やはりケアレスミスにつながることもあります。厳しいことを言うようですが、よく考えてみてください！1教科で5点のケアレスミスがあったとしたら、5教科で25点も失ってしまうということに！

やはり、間違いやすい所、あるいは「得意だ」と自信のあるところほど、何度も繰り返しやって最終確認の時間にしたいものですね。

学力は「集中力」×「勉強時間」です！やはり「集中力」が最も大切なんです。集中力が高まることで、学習が楽しくなり、勉強時間の増加にもつながります。今自分にできることを「やる気と根性」で乗り切りたいものです。